

特集 建設分野の魅力 第35回

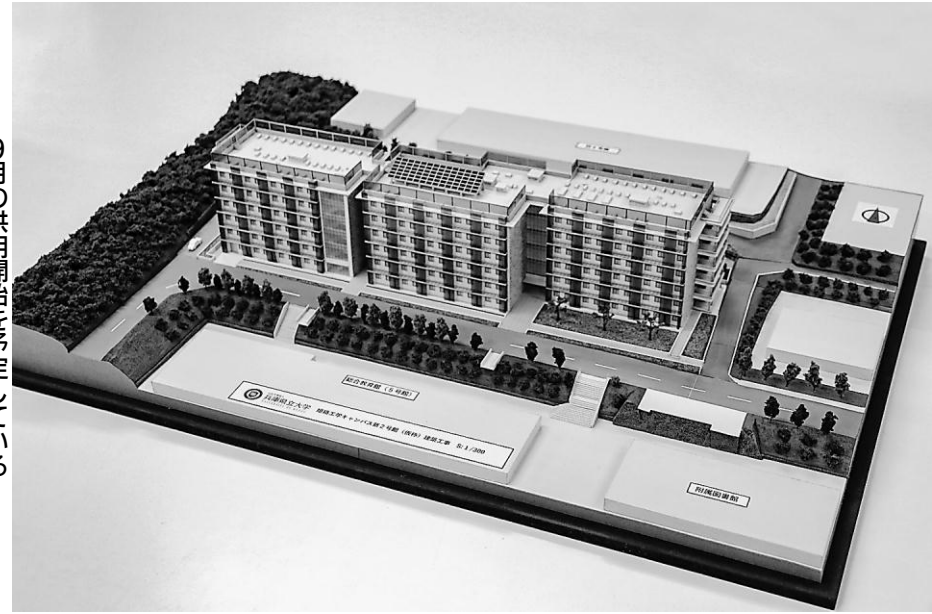
役立つ建物 残る喜び

県立大学姫路工学キャンパス新2号館建設現場を訪問

現場の3人に聞く

道路や橋を造る土木分野だけでなく、住宅や学校、病院など人々の生活に必要な建物を造り、空間を生み出す建築分野も建設業の仕事だ。建て主が求める仕様を満たしているか、機能性や安全性は妥当かを考えながら、使う人が安心して過ごせる居心地よい空間を築く。一つの構造物が完成するまでにさまざまな職種のたくさんのつくり手の力を必要とし、携わる多くの職人が「形として長く残るものに関わる喜び」を口にする。姫路市の兵庫県立大学姫路工学キャンパス新2号館の建設工事現場で活躍する3人に、仕事の魅力ややりがいなどを聞いた。

(取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会)



9月の供用開始を予定している「兵庫県立大学姫路工学キャンパス新2号館」の完成模型

姫路工学キャンパス

築50年以上経過して老朽化が進んだため、新たな時代のニーズに応えようと2020年6月から建て替え工事に入っている。新2号館では現代社会に欠かせない物質・機械分野に精通した技術者や研究者を養成し、関連分野における高度な大学研究に取り組める施設として整備する。鉄筋コンクリート造り6階建て、22年8月完工。

同キャンパスでは「最先端工学研究・人材育成・地域支援の拠点」をコンセプトに、15年から建て替えに順次着工。17年に新本館や設備棟、18年に新1号館が完成している。



株式会社ソネック (高砂市)

楞野 尚人さん



■ 建築(施工管理)
現場監督として、全体の作業を円滑に進めるために調整役を務める。主な仕事は「墨出し」作業と写真記録。「墨出し」とは建物が立ち上がる前の準備段階で設計図を原寸大に描くための作業で、近年はレーザー照射器を用いて工事に必要な基準線を書き出す。
写真記録は適切に工事が行われたかを判断する大事な資料。コンクリートなどで隠れて完成後に見えなくなる部分は特に重要で、鉄筋の数や太さ、間隔に間違いがないかをチェックしながら撮影する。「建築現場はまだ人の手で仕事をすることが他の職種より多いと思います。当然、設計図通りに施工されていないときがあり、その場合は専門業者に指示し修正してもらいます。事前に見つけられて『良かった』とほっとします」と話す。

作業を円滑、着実に調整

立兵庫工業高校建築科へ進み、県外の工業系大学に進学。同社には昨年4月に入社したばかりだ。「初めて現場に来たときはまだ平面に近かったが、今では最上階までコンクリートが打ち終わった。建物が出来上がっていく過程を実感できるのがこの仕事の魅力」と楞野さん。朝礼では80〜90人の作業員を前にその日のスケジュールを的確に説明し、「1年目は思えないほどじつかりしている」と作業員からの評判も上々だ。「仕事をきっちり進められる現場監督になるのが目標。人との出会いやコミュニケーションを自分の成長につなげていきたい」



建物の角度を測量機器で確認する楞野尚人さん。角度のずれは距離が長くなると大きな誤差になる

株式会社三枝設備工業所 (高砂市)

是常 央征さん



■ 機械設備(施工管理)
空調から、トイレや洗面所などの衛生、水道の給排水、消防設備まで、さまざまな建築設備に携わる。「工事の最初から最後まで関わる仕事。基礎工事段階では配管を通すために地面を掘削するところから始まり、工事が進むにつれ、タイミングを見てさまざまな設備を屋内に取り付けていく。いろいろな設備を扱うので、幅広い知識を持つておく必要がある」という。
高砂市出身。高校卒業後に就職した先は、以前トイレの修理に来てくれた実家近くの会社。水道修理をしてみたら「純粹に『こういう職種があるんだ』という発見があった。ものを作ったり触ったりする作業も好きだったので」。最初の10年は建築配管や道路に水道管を埋設する配管工を務め、その後は協力業者に施工を依頼し施工管理者として働いて22年。「管理者として大事なのは工事全体の流れを読み、設備工事に入るタイミングを見極め、段取りや他業種と調整、品質を管理すること」

工法、人と出会う楽しみ

3次元のCAD(コンピューターによる設計)ソフトを使用して立体的で見やすい図面を作成し、持ち前の明るさで円滑にコミュニケーションを取りながら協力業者の作業員に指示を伝えている。「出来上がったときに施工主さんから『ありがとう』の声を掛けられたときがやっぱり一番うれしい」とやりがいを感じる瞬間を話す是常さん。「たとえ建物の形が同じでも、従事する人が違えば進み方も変わるから、同じ現場一つもないんですよ。いろんな現場で新しい工法や人に出会えるのも、自分にとって楽しみの一つかな」



空調設備の配管の長さや間隔が施工図通りに設置されているかを探する是常央征さん

西部電工株式会社 (姫路市)

宇田 真人さん



■ 電気設備(施工管理)
図面通りに施工されているか。分電盤は正しく接続されているか。コンセントにちゃんと電気がきているか。そして部屋の照明は問題ないか。広々とした現場で専用の機器とタブレットを手に、一つ一つの電気設備が基準に達しているかをチェックして回る宇田さん。「ここは今まで経験した工事の中で一番規模が大きな現場なので、電気機器も多く大変。専用のソフトを使いペーパーレス化を進め、作業の省力化に努めている」と話す。
県立龍野実業高(現龍野北高)電気科を卒業後、「電気は生活や産業に欠かせないエネルギーだから、安定した職業だろう。高校在学中に取得した第2種電気工事士の資格も生かしたい」と考え、地元の実業会社に就職して12年目。第2種よりも大規模な電気設備を担える第1種電気工事士の資格を入社後に取得し、当初は公共施設の建設工事などで配線、分電盤の結線、照明器具の取り付けなどを担当。6年ほど前から管理

資格取りつつ技術向上

者として協力業者の作業員の人員配置や工程調整、施工図の作成などに取り組んでいる。
「電気設備は扱う設備が多く、工具や材料、施工方法などの種類はさまざま。初めて扱うものに多く遭遇するので覚える知識も多いが、資格を取りながらどんどんスキルアップしている仕事」と話し、「大変だけど楽しいですよ」と笑顔を見せる宇田さん。「自分が関わったものが形として残るのがこの仕事の魅力。完成後、一斉に明かりがともったときに感じる達成感は大きい」とやりがいを話す。



電気設備が基準を満たしているかをテストして結果をタブレットに記入する宇田真人さん